

第4回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和5年9月8日（金） 18時30分～20時30分
場所	旭川市大雪クリスタルホール 第2・3会議室
出席者	<p>参加者 12名</p> <p>有馬 準氏, 草野 常幸氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 鈴木 伸治氏, 鈴木 美央氏 (オンライン), 高橋 遼太郎氏, 長尾 英次氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏, 林 亜優氏, 山田 直人氏</p> <p>オブザーバー 3名</p> <p>国土交通省北海道開発局旭川開発建設部道路計画課長 坂本 毅氏</p> <p>北海道上川総合振興局旭川建設管理部地域調整課企画調整係長 後藤 恵美氏</p> <p>旭川市土木部土木管理課主幹 尾崎 理人氏</p>
欠席者	四戸 秀和氏, 三浦 詩乃氏
会議資料	<p>資料：第4回 買物公園のあり方検討会議</p> <p>参考資料1：第3回会議 ワークシート回答一覧</p> <p>参考資料2：第4回 買物公園のあり方検討会議 買物公園来訪者を対象としたWebアンケート調査 【集計データ】</p> <p>参考資料3：第4回 買物公園のあり方検討会議 8/24 フィールドワーク（居心地調査）結果</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	7名（報道2名）
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) 前回までの検討会議の振り返り	
事務局	(事務局より, 会議資料 (P1, P2) に基づき, 説明を行った。)
座長	<p>前回までの意見の振り返りについての説明を受けた。</p> <p>これらの内容についての意見は, 未来ビジョンやエリアプラットフォームについての意見と合わせて伺うこととしたい。</p>
(2) エリア調査結果について	
(3) フィールドワークの結果報告	
事務局	(事務局より, 会議資料 (P3～P23) に基づき, 説明を行った。)

座長	<p>人流データを活用した動態調査，Webアンケート調査，フィールドワークの結果についての説明を受けた。</p> <p>これらの内容についての意見は，未来ビジョンやエリアプラットフォームについての意見と合わせて伺うこととしたい。</p>
(4) 未来ビジョンについて（将来像実現に向けて必要な取組）	
事務局	（事務局より，会議資料（P29，P30）に基づき，説明を行った。）
座長	<p>これまでの説明などを受けて，今後，策定していく未来ビジョンで示す将来像のイメージについて，事前に配付しているワークシートに基づき，意見をいただきたい。</p>
参加者	<p>未来ビジョンの将来像実現に向けては，例えば20年後，買物公園の各商店街の代表的な人たちやこの検討会議のメンバーなど，私の次の世代の若い人たちが，臨機応変に，それぞれの専門性を生かして，エリアプラットフォームのマネージャーなど，リーダーになっていくのが理想であると思っている。</p> <p>それを実現するための取組として，この検討会議という公式の場以外の場でも，明るい未来の話ができる場を率先してつくっていくことが私の役目であると考えている。</p>
参加者	<p>この検討会議に参加させていただく前までは，買物公園には希望がない，改善策を見い出しても，それを継続して持続化していくのが難しいという気持ちもどこかにあったが，この検討会議に参加させていただくことにより，自分自身の中にも，他人事ではなく，自分事になり始めているという気持ちの変化が出ている。</p> <p>先日，買物公園の商店街の関係者の間で，これからの買物公園をどうするかという話をした際，話題になったのは，市長になった方がまず必ず考えることが，「買物公園をどうやって良くしていこう」ということである。買物公園は，日本で初の歩行者天国であり，何十年も前から，買物公園の優先順位は，常にトップにあるとのことである。今は，そのような歴史の中で，最も悪い状態であるかもしれないが，駅前に便利な大型の商業施設ができて，そこに人が流れてしまうということは，その施設ができる前から十分にわかりきっていたことであり，これが現実なので，それに対して何か言ったとしても，仕方がないことであると思う。</p> <p>現在，買物公園のある商業施設が，あと数年でなくなり，その跡地利用が進まなければ，マンションを建てるという話もある。一方で，例えば音楽堂をつくるなど，観光客を呼び込むことができるような，インパクトのある面白い建築物をまちなかに持ってくるという話も出ている。</p> <p>この検討会議が設置されていることもそうだが，買物公園を盛り上げ</p>

	<p>ようという試みがあり、いろいろな意見が出てそれに反対する意見があるとしても、みんなで買物公園を良くしていくことや、まちに多くの人を訪れ、旭川のまちが盛り上がっていくことに反対する方はいないと思う。まちに面白いもの呼び込んでいかなければ大変なことになるという危機感のようなものを今後の議論の中でまとめていきたいと思う。</p> <p>買物公園で一緒に頑張っていこうという仲間や同士と話し合いながら、まちのためにできることがあればやりたいと思っている。皆様から一緒にこのようなことやろうと言っていただければ、フットワークを軽くして、知り合いなどにも声をかけながら、できる限り、動こうと思う。この検討会議に参加することにより、モチベーションや意識は高くはなっているので、将来的なイメージも大事であるが、例えば、今月や来月、冬までのイベントを皆様と一緒に考えるなど、他人事ではなく、自分事としてとらえる意識はとても強くなった。</p>
座長	<p>とても重要な視点を指摘していただいた。</p> <p>未来ビジョンについて、長期的なビジョンで、まちにどのような施設があるべきか、マンションばかり建つことはどうなのか、公的な文化施設などがあるべきなのか、マンションであったとしても、1階と2階には具体的に、このような店舗が必要であるということなどは、都市計画などのまちづくりのルールに直接つながってくることである。</p> <p>現状、買物公園には、地区計画等の都市計画のルールはないことから、用途の制限内で、いろいろな建物が許容されることにはなるが、その中でも、一定の方向性があった方が良いという御意見であった。</p>
参加者	<p>未来ビジョンの将来像実現に向けて、私が所属する商店会のエリアに絞り、自分ができそうなことを考えた。</p> <p>「将来実現したいこと」のうち、「やりたいことができる空間」としていくためには、「店主が楽しく空間を活用できる」ことが重要であると考えた。これを実現することにより、「自発的にイベントなどを展開する主体がいる」、「市民が自由に使いこなし、様々な楽しみ方ができる」ことも実現できると思う。その実現に向けた取組については、「公共空間等の空間活用手続きの簡素化」、「利用ルールの緩和」、「エリアごとの管理体制」が必要だと思う。仮に、利用ルートを緩和し、手続も簡素化して、自由にいろいろなことができるという状況になった場合に、ばらばらの景観になってしまうということにもなりかねない。店主がそれぞれ楽しく空間を使える中でも、エリアのルールや使い方が、そのエリアに愛着を持っている人などにより、エリア全体として見ても成り立っていくという形で管理していく体制が必要であると考えた。</p>

	<p>これまで先人の方たちがつくってきたエリアのイメージから、これから理想とするイメージへ上手くバトンをつないでいく、伝承していくという立ち位置に立つこと、また、警察や市の関係部局とのつなぎや、窓口となることであればできると考えている。</p> <p>次に、《行きたい・集まりたいと思う空間の創出》のためには、「出会いがある」ことが重要であると考えた。新しいお客様と店主との出会い、空き店舗と起業したい人の出会いなどのさまざまな種類の出会いがある中で、イベント企画・運営、広報、商店会エリアの案内などができると考えている。</p> <p>この検討会議の議論については、そろそろ議題を絞り、未来ビジョンや、社会実験の内容を濃くしていく必要があると思う。それらを実施できるエリアについても考えながら、掘り下げていくことが重要であると思う。</p> <p>エリアによってできることが違うと思う。例えば、駅前のエリアは商業ビルが多く、それぞれのテナントに共通する意識のようなものをつくりづらいと思うが、個店が多いエリアであれば、意識の統一を図りやすいということはある。飲食店が多いエリアとショッピングができるエリアでは違いがあると思うし、それぞれのエリアで色を出していくことができれば、それぞれがしっかりと自分事として捉えられると思う。</p>
座長	<p>テナントが多いエリアについては、イベントを行う際にも、なかなか人を出せない状況などもあると思う。駅に近いエリアであれば、人を呼び込むには、公共交通の使い方を考えていく必要もあり、エリアの特色を出していくという重要なポイントを指摘していただいた。</p>
参加者	<p>以前に、買物公園は、チャレンジできる場であって欲しいと発言したが、それに関連して、「将来実現したいこと」の《やりたいことができる空間》については、「自発的にイベントなどを展開する主体がいる」ことが重要であると考えた。このことが、店をやりたいという方が増えていくということにもつながっていくと思う。</p> <p>それに関連して《行きたい・集まりたいと思う空間の創出》では、「出会いがある」ことが重要である。私自身も、仕事柄、様々な方との出会いがあり、また、様々な方たちを紹介させていただくので、そのようなことから、イベントの開催や様々なことにつながる可能性が広がっていくと思う。</p> <p>また、「将来像の自分ができる将来像に向けた取組」については、今も行っていることであるが、「空き家・空き店舗マッチングの実施」や「SNSなどで情報発信」がある。</p>

	<p>日頃の業務において、お客様の話を一通り伺う中で、相手が必要としてないかもしれない情報についても、なるべくお節介を焼いて、伝えてあげる、提案してあげるということに努めている。その結果がどこで、どのように好転していくかわからないので、いろいろな可能性を探っていくという中で、そのようなことに気をつけて日頃からお客様に接している。</p> <p>例えば、グランピングをやりたい、アクティビティのツアーのような事業をやりたいという、面白い発想を持っている方や、市内の若い方もいらっしゃっている。そのような方たちに対して、心から、様々なアプローチをして、少しでも買物公園が活性化していくように取り組んで行きたいと思っている。</p>
参加者	<p>普段、まちゼミやオープンテラスなど、さまざまなイベントを実施する中で、買物公園のそれぞれの店の方々は、やらされている感が強く、参画する意識が低いと感じていることから、未来ビジョンの将来像の実現に向けて、「将来実現したいこと」の《やりたいことができる空間》については、「自発的にイベントなどを展開する主体がいる」ということが重要である。「将来像実現に向けた取組」については、特に、「各種イベントの企画・開催・調整」であると考えた。</p> <p>買物公園には、平和通商店街振興組合、三和・緑道商店会があり、また、平和通商店街の中にもそれぞれ「通り会」があり、それぞれが、積極的にイベントなどを独自に立ち上げ、調整する能力を持ち、それぞれが必要に応じて、例えば警察や市の土木管理課などとの調整や手続きを行うことができる。また、例えば、イベントに関連する花の水やり、ごみ拾い、テラスセットの管理なども積極的に行っていた。</p> <p>そのようなことが未来ビジョンを通じてできるようになると良いと思う。将来的には、やらされている感じではなくて、自分から、積極的に動いていけるようになってほしいと思う。</p>
座長	<p>それらの商店街などの担い手の中に、地元以外の方が入ってくることについてはどう思っているか。</p>
参加者	<p>それも良いと思う。</p> <p>例えば、買物公園でイベントする際に、「通り会」が実行委員会をつくり、その実行委員会に、「通り会」をサポートする機関が入っている場合などには、申請のハードルが低くなるということがある。また、イベントを実行するときにも、有意義であると考ええる。</p>
参加者	<p>私は、音楽大行進やミュージックウィークなどのイベントに事務局としてかかわっていることもあり、キーワードを音楽に限定したい。</p>

	<p>将来像の実現に向けて、《将来実現したいこと》については、音楽のイベントについて「自発的にイベントなどを展開する主体がいる」、また、音楽を使い、「店主が楽しく空間を活用できる」、「空き施設を活用」して音楽ができるなど、様々なことが関連してくると考えている。</p> <p>野外音楽堂もあれば良いと思う。音楽を通して、いろいろな人との出会いや感動もある。音楽を披露する場であるとともに、情報発信する場にもなる。そのような音楽的な情報を発信して文化のまちになっていくという形になれば良い。</p> <p>旭川で吹奏楽をやっている学生たちや、ジャズなどの様々な分野のミュージシャンの方たちなどは、旭川の文化的なインフラであるといえると思う。その方たちに演奏をしてもらう場をつくるのが、まちを活性化していく上で1つの材料になると思っている。それがこの場所で叶うという方向に持っていけたら良いと思う。</p> <p>今年のミュージックウィークにおいては、旭川のジャズサクソプレイヤーである米澤美玖さんが、買物公園の「サキソフォン吹きと猫」という有名な銅像の前で演奏を行った。吹奏楽の女子たちと共に演奏もしていたが、あの場所が、音楽を演奏する聖地になれば良いと思う。</p> <p>市民文化会館など、音響がしっかりした建物が建て替えられていくことも良いが、もっと小さなホールや、ストリートなどで日常的に演奏されることができれば良いと思う。買物公園のエリアについては、七条緑道やライブハウス、フードテラス、旭川はれてなど、ホールではできないようなタイプの音楽を演奏できる空間となり得るような場所もあるので、それぞれのエリアの特色を生かした性格付けをして、それが発展して、その延長線上に、常時、音楽ができるような野外音楽堂があれば良いと思っている。</p> <p>このように、具体的にできることから発展して、このエリアの性格付けをしていけたら良いと思う。</p>
参加者	<p>将来像の実現に向けて、「将来実現したいこと」のうち、《エリアブランディング》について、「1日中楽しめて家に帰りたくなるようなエリア」となることが、また、「将来像実現に向けた取組」は、「くつろげる空間づくり」が重要であると考えた。</p> <p>「くつろげる空間づくり」に関連して、例えば、駅の中に展示してある椅子などの旭川家具について、屋外に出してベンチとして設置することができれば、家具のまちということが、もう少し身近になると思う。</p> <p>「自身ができる取組」については、旭川で様々な活動をしている人たちの後に付いて行って、その人たちの働きかけに応じて手伝わせていた</p>

	<p>だくことであると思っている。</p>
座長	<p>エリアの調査結果においても、20代の方は、比較的、回遊する区画数が多いという結果も出ている。その理由などがわかれば、もっと多くの人に回遊してもらえないかと考えている。</p>
参加者	<p>将来像の実現に向けて、長期的な取組については、行政としても計画的に、多くの予算をかけなければできないことであると考えており、短期的な取組としてできることを積み重ねてきた長期的な取組については、自分としては、あまり魅力を感じていない。</p> <p>そのような中、短期的な取組として自分ができることについて、明日と明後日の2日間、私が所属する飲食業の組合で小さなイベントを実施する。私が経営する店舗がある小路でも、以前開催していたが、担い手の高齢化やコロナ禍などのため、ここ数年できていない飲食のお祭りを再開したいという声も出てきている。これらについては、自分一人だけでできることではないことから、周りの人もやりたいと思えるような雰囲気や、参画意識をつくりあげていく必要があることから、そこをクリアしながら取り組んでいきたいと思う。小路でのお祭りについては、例えば5条通近辺の有名な飲食店などにも参加してもらい、5条通りを封鎖してテントを設置するなど、更に大きな規模にできれば、もっと楽しくなると考えている。参加してもらおう店舗との兼ね合いもあり、まだイメージでしかないが、将来的な開催を模索しているところである。</p> <p>先日、山口県長門市で開催された食のイベントに参加してきたが、人口が3万人強の市に、2日間で5万人ほどの人が集まっていた。準備の段階から、行政ともしっかり連携して開催されていた良いイベントであり、毎年、日本中を持ち回りで開催されているイベントであることから、それをいつか旭川で開催したいと考えている。</p> <p>このように、様々なものを開催することができれば、一時的にはまちが活性化して、人が動き、お金も回ると思うが、これらは長期的な取組に結びつくものではなく、あくまで短期的にできることを模索してつくりあげているものなので、これらと長期的な取組とのつながりをしっかり考えていきたいと思う。</p> <p>エリアごとにできることなどをもう少し詰めて考えていく必要があると思う。短い時間で動いていくものなど、対策のための時間があまりないものもあることから、情報を共有しながら、起こしたアクションを次につなげていくようなことを多くできていければ良いと思う。</p>
参加者	<p>私としては、まちが賑わってほしい、空き店舗ができるだけ少なくなつてほしいということを理想として描いている。</p>

	<p>「将来像実現に向けた取組」について、私の立場としては、ネットワークや情報を活用して、何かを探している方同士をおつなぎするという役割である「空き家・空き店舗のマッチングの実施」が、できることに近いと考えた。さらにいえば、空き店舗を活用していくというより、その空き店舗をなくしていくことの方が良いと思う。</p> <p>情報の活用にかかわることとしては、気軽に教えてもらえないこと、学校ではあまり教えてもらえないようなことを聞ける場所があれば良いと思う。例えば、大人になってから向き合う税金や確定申告のことなど、現在も高校生に向けたそのような情報を発信する取組は行っているが、生活に関わる情報などを更に気軽に得られる場所があれば良いと思う。</p> <p>情報を得る方法について、インターネットなどで24時間、いつでも必要な情報を得て、自分で解決する方法が良いのか、それとも、対面で、必要な情報を聞き、いろいろと話しながら疑問を解決していく方法が良いのかということについて、最近、よく考えている。</p> <p>理想としては、そのような悩みなどを気軽に相談してもらえる場所でありたいと考えているが、営業時間の縛りなどもあり、現状として、まだまだそのような場所ではないと思っている。将来的には、買物公園において、気軽に立ち寄ってもらえるような施設の一員であれば良いと考えており、それが、実現したいことにもつながっていくと思う。</p> <p>現在、建設中のタワーマンションについては、基本的には人気があるものの、階層によっては苦戦している部分もあると聞く。マンションが増えたとしても、果たしてまちなかに住む人は増えるのだろうかという疑問も少なからず持っている。</p> <p>先日、札幌を訪れた際、大通公園でビアガーデンが開催されており、多くの人で賑わいを見せており、旭川は、札幌と何が違うのかということを考えさせられた。その疑問は、まだ解決できていないが、皆様と様々な意見を交わしながら、今後に生かせることを議論していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>先ほど、旭川駅に置かれている家具についての話題が出たが、それらの家具については、旭川家具工業協同組合からの貸出品である。市民の方にも、旭川は家具のまちであるということ知らない方が多いことから、少しでも、市民の方に、旭川の家具に触れる機会や場をつくりたいという思いで始めたものである。</p> <p>将来像の実現に向けて、今の時代を生きている人たちは、時間がない、仕事が忙しいなど、かなり窮屈な毎日を過ごしている方が多く、買物公園が、くつろぎの場、楽しめる場、安らぎの場となることを求めている</p>

方が多いという印象を受けた。将来的に買物公園を活性化するときにも、そのようなことがキーワードとして出てくると考えている。

落ち着きや安らぎのある空間にするときには、例えば東京などは、高いビルが多く、空が見える空間が少なく、閉鎖的な印象であり、それが圧迫感や不安につながるということがある。それを解決するためには、これは一般の家屋でもそうであるが、抜け感というものが必要になってくる。高いビルで囲ってしまうのではなく、その先が見通せるような開けた空間をところどころに配置する。例えば、シートを広げてピクニックのようなことができる空間や、子どもを走らせることができる空間をつくるというように、一部の建物の高さを減らし、低めの場所もつくっていくことが必要であると思う。

先日のフィールドワークの際、旭川駅南広場で、外国人の方が芝生で気持ち良さそうに寝転がっていたという話があったが、おそらく、日本人は性格的に、人の目があるところでそのようなことをするのが苦手な人が多いので、日本でそういう場をつくるとすれば、パーテーションなどで緩やかな遮りをつくる必要があると思う。少しの隙間はあいているが、よく見なければわからないくらいの緩やかな遮り方をする。例えば、公園であれば木を植えるなどの方法で少しだけ視界を遮り、くつろげる空間をつくっていくことが大事である。

店については、便利さの部分は駅前にある大型の商業施設に任せることとし、買物公園には、現在賑わっている店もそうであると思うが、デザイン都市らしく、デザイン性が高いものを扱う店や、大型の商業施設では手を出せない、専門性がある、かなり濃いようなコアな店が数多くあれば良い。そのような店があれば、行ってみようという気持ちになってくると思う。そして、それは物にも食にも言えることであると思う。

イメージとしては、例えば、駅の方に近づくほど、いろいろなものが揃う。逆に離れるほど、雰囲気が良い、デザイン性がより高くなりコアなものが集う。中間辺りのエリアでは、食の良いものが集まるというようにエリア分けをすることができれば、回遊しやすい環境が整っていくと思う。

先ほども同様の話が出たが、知れば知るほどやる気が出てくるということについては、私も感じるどころであり、市民の方にも、SNSなどで知った気持ちにさせてしまうということが効果的であると思う。

例えば、買物公園で大きなイベントを開催したときに、買物公園の全体のインスタグラムをフォローしてくれた人に割引券を配布するなど、買物公園全体や各店のイベントなどの情報を、もっと踏み込んだ形でS

	<p>NSで発信し、市民の方を買物公園について詳しくなった気分させることにより、興味がわき、買物公園を訪れるということにもつながっていくと思う。</p>
<p>参加者</p>	<p>長期的にどのような施設があるべきか、まちなかにマンションが建つことについてどのように考えていくかという議論が最初に出てきたが、このようなことが、まさに未来ビジョンとともに考えていくことである。</p> <p>未来ビジョンに残すということは、市民の方と考えたものを掲載することであるので、今後、市が予算を要求する際の根拠として使っていくことができる。長期的な取組については行政が予算を組んで行っていくものであるとの意見もあったが、未来ビジョンは、そこに食い込んでいくチャンスでもある。</p> <p>ビジョンに掲載する内容について、ハードに関連したことを戦略的に考えていくことにより、実際に、ハード整備として実現できる可能性が出てくる。私が他の地域で、エリアプラットフォームと未来ビジョンに関して行っているものの例であるが、例えば、電柱の地中化について、地域として特にやりたい、議論として話題に上がってきたことではないが、未来ビジョンに掲載することにより、予算が付きやすくなるからという理由で、戦略的に、あえて掲載しようとしている。未来ビジョンについては、このようなことも意識して考えていければ良い。</p> <p>また、エリアの性格付けについて、皆様はとてもパワフルであり、皆様のエリアに対する思いなどを聞いていると、そのエリアにどのような人がいるのかが現れてくれば、それが、自然にエリアの性格付けになってくると思う。</p> <p>そこで重要なのは、座長の話にもあったが、アイデアを実現できるルール、マインドの使い方のルールやルールの緩和も含めて、それらのルールをどのようにビジョンに反映させていくかということであり、それができれば、エリアの性格も付いて来るものであると思う。</p> <p>また、この検討会議に参加したことにより自分事として認識できるようになったという話も印象的である。1人では難しいことである意識改革が、この検討会議でできていることは素晴らしいと思う。</p> <p>これを言い換えると、これを継続し、このような意識を持つ人々が出てきたり、次のプレイヤーたちもこのような意識を持つことができるようにすることや、この検討会議が終了した後も皆様に議論ができ、意識改革ができる場をつくっていくことが重要であることから、そのためには、エリアプラットフォームとしてどんな役割を担うと良いかということについても議論の上、未来ビジョンに落とし込むことができれば良</p>

	<p>いと思う。</p>
座長	<p>本日、欠席されている方もいるが、その方からは、これまでの会議において、環境やランドスケープに関する御意見をいただいているところであり、それらについては、今の時代のSDGsという視点でも重要であると思う。</p> <p>最後に、未来ビジョンに必要なことについて、例えば、銀座には、銀座ルールという、どのような建物を建てるのかということに関するルールがある。また、横浜の元町商店街には、地区計画と、まちづくり協定がある。それぞれのエリアで建物が建てられるときには、地元と協議を行い、ふさわしくないものはつくらないという仕組みである。</p> <p>これは札幌のエリアマネジメントでも同様なことが行われており、未来をつくっていくときや、地域としてまとまりをつくっていくときには、一定程度のまちづくりのルールは必要である。</p> <p>そのことを長期的なビジョンの中に織り込んでいく必要がある。もし、それがなければ、ビジョンを描いたとしても、あるオーナーが土地を処分したいというだけの理由で想定していなかったものが建てられてしまうということも起こってしまう。長期的に見ると、公共投資をした場所であっても、それにフリーライドする形で、例えば単なるマンションが建ってしまうということも想定されてしまう。</p> <p>そのようなまちづくりに関するルールが必要であるということについて、これまでの議論の中であまり出てきていなかったもので、ここで発言させていただいた。</p>
(5) エリアプラットフォームについて	
事務局	(事務局より、会議資料(P31)に基づき、説明を行った。)
座長	<p>これまでの説明などを受けて、今後、策定していく未来ビジョンで示す将来像のイメージについて、事前に配付しているワークシートに基づき、意見をいただきたい。</p> <p>前回までの会議の内容や、先ほどお話しいただいた、ご自身ができる取組などを踏まえ、エリアプラットフォームの体制、取組、役割などについて、意見をいただきたい。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームの役割について、未来ビジョンに対してこのような組織があれば良いのか、単に、この検討会議のように皆様が集まって会議や情報共有などの話し合いの場が定期的に行われることが良いのかなどについてはまだわからない部分が多いが、例えば、イベントを開催するというようになってきた場合には、専属の事務局がなければ厳しいと思う。</p>

	<p>商店会の代表や会社の代表など、構成員となる皆様はそれぞれ仕事を抱えていることから、専属の事務局がなければ、議論をして、情報共有をすることまでしかできないと思う。専属の事務局の人が、さまざまな指導や協議をする、このようなイベントを開催するために人員を集めるなどをしていかなければ、なかなか動かない組織になってしまうという懸念がある。</p> <p>エリアプラットフォーム自体が担う役割をもう少し突き詰めていかなければ、どのような形が良いのかということがあまり見えてこない。</p>
座長	<p>今の御指摘はとても重要なことである。資料にも、ディレクターやコーディネーターといわれる方が必要であると記載されているが、中心となってこの組織を運営していく人が必要であり、そのような人材を見出していくことは重要なことである。</p> <p>これについては、始めるときいきなりお願いしてもできるものではないことから、未来ビジョンの実現に向けた社会実験などを行いながら、そのようなことをできる人材を探していく。又は、その中でリーダーシップを発揮できる方が中心的な存在になっていくという方法もある。</p> <p>皆様がそれぞれの組織にかかわっている状況であるが、組織を超えたコミュニケーションができる方もいると思う。また、市民の方や、外部の方の意見も取り入れることができる方であることも重要である。</p> <p>中心となる人材については、今後も皆様のイメージをを少しずつ、イベントの開催などを通して固めていくということも大事である。</p>
参加者	<p>先ほど、道路を封鎖してお祭りを開催するというアイデアについて話したところであるが、例えば、道路の封鎖について警察から許可を得る際、商店街などの団体からの申請より、エリアプラットフォームからの申請の方が通りやすい、融通が利くということであればうれしく思い、期待するところである。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームについて、他の地域の例を見てみると、どんなものでもあり得る、その地域によって全く違うものであると感じている。</p> <p>エリアプラットフォームに大きな企業などが入っている地域は、それらの企業がお金を出しあい、事務局のような機能を担うことができるが、そうではない場合について、私は、あまり重たくし過ぎない方が良く考えている。</p> <p>事務局を置くと多額の費用がかかる部分もあるので、例えば、エリアプラットフォームを地域の活動を承認するなどの機関にして、実働部隊は別に設けた方が、実は動きやすいのではないかとということも考えてい</p>

	<p>る。</p> <p>これらについては、地域の実情に合わせていくこととなるが、例えば、商店街組合などが事務局を担うということもあり得ると思う。</p> <p>どのようにしたら組織が続いていくのかということを考えながら、あまり無理しすぎず、大きくつくりすぎないということも、実は大事なことであると思う。また、資金の問題も大きいということも感じている。</p>
座長	<p>とても重要なことを御指摘いただいた。</p> <p>最初から大きくつくってしまうよりは、実践を通して、少しずつ体制を整えていくという方法もあるという御意見であったが、旭川市としてはそのようなイメージを持っているか。</p>
事務局	<p>事務局としては、今後できあがる未来ビジョンの取組の内容によって、エリアプラットフォームが担う役割も変わってくると考えている。</p> <p>大きなものをつくる場合、専門の人員が必要であり、そのような人員がいなければ動いていけないということは御指摘のとおりであるが、そうではなく、まずは、未来ビジョンに向かって、皆様が情報などを共有できる場として、来年度、未来ビジョンに向けた社会実験に取り組んでいきたいと考えている。</p> <p>エリアプラットフォームとしては、まずは社会実験に向けて取組を進め、その先には、社会実験で行ったものが少しでも実現できるようにしていきたいと考えている。</p>
座長	<p>このことについては、以前、「アジャイル」という言葉が出ていたが、何かをやりながらつくっていくということもポイントになる。</p> <p>今日の議論だけで結論を導き出すということではなく、これから、未来ビジョンやエリアプラットフォームがどうあるべきかということについて、しっかりと議論をしていきたい。</p> <p>今日は、口火として組織の構成案を提案させていただいたが、今後の会議において、これに皆様の意見を加えて、役割、体制、あり方などを具現化していくことを考えている。</p>
参加者	<p>エリアプラットフォームを今後、どのように運営していくのかについて、イメージができていないところであるが、この検討会議を通じて知り合うことができたつながりを生かし、信用できる人たちを紹介し合いながら、顔見知りの輪がどんどん広がってくれば良いと思う。</p> <p>そのようなつながりが、この検討会議が終了する来年以降も持続していくためには、この検討会議で顔見知りになった人たち同士で、コアのメンバーとして継続して頑張っていく必要があると思う。</p> <p>また、私自身は、買物公園を盛り上げよう、旭川は寂しいまちである</p>

	<p>などと思われることについて、あまり良い気持ちがしない。</p> <p>私が、5年ほど前に旭川に戻って来て感じたのは、駅前の大型商業施設に多くの人が集まるようになったということと、買物公園に、閉店となり、シャッターが閉められたままになっている建物がとても多くなったということである。このような建物が多ければ、まちが衰退しているというように伝わってしまうことから、エリアの中にどのような店をつくるのかということ市が主体的に決めて、それらの店を始めたい人に、開店する際の家賃などの費用を最初は助成し、まずは始めてもらうということに取り組んでもらえるとありがたい。</p>
座長	<p>空き店舗をどのようにしていくのかということについては、全国的に、どこでも悩んでいる話ではあるが、その内容を未来ビジョンに盛り込んでいくことや、それらについて、エリアプラットフォームで考えていくことについても、今後、議論していく必要があると考える。</p>
(6) 今後のスケジュール	
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、10月23日（月）の18時30分からを予定 ・場所は、旭川市シニア大学講座室を予定
3 閉会	